



ありがとう、ロータリアン！ ⑮

スリランカの若者をニッポンへ



別府日本語学校校長

スチッタ・グナセカラ さん

出身：スリランカ

奨学期間：2010 - 11

学校名：別府大学大学院

世話クラブ：別府RC

少しでも日本語が話せたなら……

初めて出会った日本人は、中学校のバレーボール部の先生です。先生はとても礼儀正しく、遠い日本から教えに来てくれたことに感謝の気持ちでいっぱいでした。当時、スリランカでは日本のテレビドラマ「おしん」が放映されており、貧しい生活の中で歯を食いしばって生きる、幼いおしんの姿に感動を覚えたものでした。

日本に関心を持った私は高校卒業後の2003年、大分県別府市にきました。当初は日本語が全く話せず、日用品を買うことすらできませんでした。日本の生活になじめず、一緒に留学した友人たちの多くが志半ばに帰国していきました。肩を落として去っていく仲間を見送りがら、こう思いました。「少しでも日本語が話せたなら、少しでも日本語を勉強してから来ていたなら、こんな形で夢をあきらめずに済んだのに……」と。

「後輩たちには自分たちのような思いをさせたくない」。そのころから、スリランカに日本語を教える学校をつくらうという気持ちが芽生えてきました。

スリランカで「別府日本語学校」を設立

1年間の日本語課程を終え、別府大学の学部課程に合格。日本語教育法についての専門知識を得る一方、日本の友人をたくさんつくりたくて、さまざまなイベントに参加しました。そこでスリランカ料理をつくると、「スッチーのカレーはうまい！」と評判を呼び、交流の輪がどんどん広がっていきました。

修士課程に進学してからは国際交流サークルに入り、グローバル教育を支援する市民団体の副代表を務めたり、子どもたちにスリランカの紙芝居の読み聞かせをしたりする活動を行いました。いつしか、来日したころの寂しさや不安は自信に変わっていました。

しかし、夢を忘れたことはありません。毎年、七夕の短冊に書く願いごとは「できるだけ早くスリランカで日本語学校がつかれますように」でした。

母国で高校教師をしている両親をはじめ、多くの人に私の夢を話し、実現に向けて動き始めました。一番苦労したのは資金です。アルバイトなどでためたお金と、両親から借りたお金を元手に準備を進めました。

そして2010年9月10日、念願の日本語学校を開校しました。名前は「別府日本語学校 (Beppu Japanese Language School)」。学校はスリランカにありますが、私にとって第二の故郷、「別府」の名をつけました。

18人の生徒からスタートし、2年半がたった今では38人が在籍しています。「日本留学コース」、「会話コース」、「キッズコース」の3クラスがあり、留学コースを修了した学生は全員、日本への留学を実現しています。私はまだ日本の大学院で学んでいますが、休みを利用して帰国し、校長としての役割を果たしています。

ロータリアンとの出会いを力に

多くの人の支えでここまでやって来ましたが、米山奨学生時代の世話クラブ、別府ロータリークラブ (RC) の皆さんとは特別な関係にあります。別府RCでは昨年9月、創立60周年記念事業として、3年間にわたる別府日本語学校の支援と、留学生の生活支援を約束してくれました。また、学校で使うパソコンやコピー機、机、椅子、教材なども寄贈してくれました。

実は現役奨学生の時、ロータリーのことをあまり理解していませんでした。それがわかったのは奨学期間を終えてからです。別府RCの会員を案内してスリランカのロータリークラブを訪問した際、世界中のクラブが協力

事前に日本語を学ぶことなく留学したスチッタ・グナセカラ (Suchiththa Gunasekara) さんは、日本語の習得に苦勞し夢をあきらめて帰国する友人たちを見送りながら、スリランカに日本語学校をつくろうと決意します。自ら貯めたお金などを元手に開校したのは、愛する別府の名を冠した「別府日本語学校」。この学校では日本語の習得だけでなく、留学後すぐに生活ができるよう、箸の使い方や風呂の入り方など、日本の文化を教えています。

し合い、素晴らしい活動をしていることを初めて知り、感銘を受けました。日本での勉強を終えて母国に帰ったら、必ずロータリアンになろう、と思いました。

そんな私にある方がこう言いました。「君はもう、

日本語学校という職業を通じて奉仕をしている。それはロータリーの理念と同じだよ」

ロータリーの皆さんとの出会いが現在の私へとつながり、大きな力となっていることは間違いありません。

スリランカと日本をつなぐ人材を育てたい

スリランカは 2009 年に長い内戦が終わりました。私は国民の一人として、母国のさらなる発展のために力を尽くしたいと思っています。

スリランカでは今、中国語の学習者が増えていますが、日本語もまだまだ人気です。日本語教育を通じ、日本とスリランカとの関係を強くしていくための“力”となる



別府RCの六〇周年記念で学校支援のための調印式

国際人を育てたい。そして「別府日本語学校」をスリランカで一番の日本語学校にしたい。いつか、私の学校の卒業生が米山奨学生に採用されたら、どんなにうれしいことでしょう。

カウンセラー
三浦政人氏から一言



スチッタは米山奨学生に採用されたことを、いつも感謝していました。クラブの活動にも積極的に参加し、できることを見つけて行動する姿には感服するばかりです。奨学期間が終わっても、まるで別府RCの一員のように顔を合わせていました。学校の名称を初めて聞いたときは感動しましたね。設立の趣旨に賛同したことは無論ですが、何よりもスチッタの夢ならば応援したいと会員から自然に声が上がリ、支援が決まりました。スチッタと出会えたことにわれわれも感謝しています。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

タイ米山学友会が障害児のための奉仕活動



子どもたちとの夕食会を開いた、タイ米山学友会

創立1周年を迎えたタイ米山学友会は3月16日、バンコク郊外の障害児のための児童養護施設で夕食会を開きました。参加した学友とその家族約20人は「米山」ロゴが刺しゅうされたポロシャツを着て、子どもとの交流を楽しんだほか、学友の寄付や勤務先などの協賛で集めた食材や紙おむつ、粉ミルク、冷蔵庫や電子レンジなどを贈りました。会長のウイチット・クラワッタナクルさん(1987-88/東京浅草RC)は「子どもも施設のスタッフも、とても喜んでくれました。何より、仲間と良い活動ができたことがうれしい」と語りました。